

「戦争紙芝居」上演 太平洋戦争下のプロパガンダ

紙芝居によって、いかに感情を煽られ歪められていたのか、体感してみませんか。
戦争の悲惨さを、今もう一度考えます。



「お父さんは戦死なされた」と大得意になって…

昭和17(1942)年発行



ニンゲンだけだな、
爆弾をつかっておとすのは。

令和元(2019)年発行

長野県宝 旧山辺学校校舎

令和5年8月5日(土)

1回目 10:50 ~ 11:20 2回目 12:45 ~ 13:15

通常観覧料 (高校生以上200円 松本市内70歳以上・小人無料)
親子パスポート、転入世帯パスポートがご利用になれます

空白の遺書

昭和17(1942)年1月 日本教育紙芝居協会

日中戦争(1937-1945)の際、爆撃の名手と言われた戦闘機パイロットの白相定男少佐の戦死を、その妻の談話形式で描いた紙芝居です。

子供たちの将来を思いながら蘇州空爆で落命した少佐の遺品の中に、妻へあてた葉書がありました。裏にはなにも書かれておらず空白のままでした。「私は大君に仕え奉る軍人の妻です」と、悲しみを耐える姿の描写に、兵士の家族に対する感情の抑圧を感じます。

ちっちゃんこえ

令和元(2019)年5月 童心社

脚本 アーサー・ビナード

絵 丸木 俊・丸木 位里 「原爆の図」より

ネコが語ります。家族のこと。命をつくりつづける、体の中のちっちゃんこえのこと。ヒロシマのこと…。わたしたちはどうすれば生きていけるのか？ 美しい絵から響いてくるそのこたえに、一人ひとり耳をすます紙芝居。

(童心社ホームページより)

絵画「原爆の図」を部分的に切り出して紙芝居の絵とした作品。核の悲劇を知っている日本だからこそ、ちいさいこえを聞いて、大きなこえをあげていきたい。